

東京農業大学稲花小学校

学校だより【10月28日】第28号



キンモクセイが香り始めました

東京農大世田谷キャンパスなど、農大稲花小学校の近辺でも、キンモクセイが香り始めました。子どもたちは、早速、キンモクセイの花びらを拾って、披露してくれます。子どもたちが持ってくるドングリも、スタシイだけでなく、コナラ、クヌギなど種類が増えてきました。ドングリだけでなく、そこについているお椀(殻斗)が無いと種類がわかにくいことを伝えると、ちゃんとお椀の付いたドングリを拾ってきます。植物をじっくり見る子どもたちが育っています。

安全について考えよう

台風や大雨など、気象災害の多さには驚かされます。農大稲花小学校でも、気象の状況によっては、休校などの処置をとることがあります。とはいえ、何よりも大切なのは、保護者の判断です。自宅周辺や駅までの通学路の様子、公共交通機関の運行状況、さらにはそれぞれの児童の体調や理解力を踏まえて、安全を第一の判断ができるのは、まず保護者だと考えます。これは気象災害だけではなく、危険が予想されるどのような場合でも同じでしょう。特に最近、都内や近郊の多くの場所で工事が行われ、街が急速に変貌しています。駅の通路・出口などが変わることもあります。折々に通学路を確認し、安全な通学について話をする機会をお子さまと持っていただくよう、保護者の皆さまにはお願いいたします。

楽しかったサツマイモ掘り

東京農業大学志和地弘信教授のお招き、そして、農大稲花小学校教育後援会のお世話により、農大稲花小学校の子どもたちとその保護者が10月19日(土)、サツマイモ掘りをしました。熱帯作物学研究室の学生や院生が、最寄駅から畑までの道案内をする中、集合時刻には参加を希望した30組以上の親子が集まりました。

学生や院生のサポート、そして日ごろから農業体験の指導をしていただいている湯浅さんのご指導の下、親子で力を合わせてサツマイモを掘りました。ふかしてもらってあったサツマイモの味も楽しみました。



また、国際農業開発学科パチャキル バビル助教からは、世界で作られているイモの種類、サツマイモの色や甘さになどついて、楽しいミニ講義をしていただきました。私たちは甘いサツマイモが好きですが、サツマイモを主食とする国々では、甘くないサツマイモが好まれるとか。「なぜだと思う？」というパチャキル先生の問いにしっかりと考えて、「甘いとたくさん食べられない」という正解が子どもたちから出たのは、うれしいことでした。

最後は、「おもいおいも賞」と「おもしろいおいも賞」の発表です。子どもたちが掘ったサツマイモの中で一番大きかったのは、なんと 1.8Kg。堂々の「おもいおいも賞」受賞です。「おもしろいおいも賞」は、学生さんたちが選んでくれた、二つのいもが細い根っこでつながっている形でした。

このように、教育後援会の楽しいイベントは大成功でした。ご関係の皆様のお力に感謝いたします。

田奈のお米はどんな味？

農大稲花小学校の1年生は、神奈川県横浜市田奈の水田で東京農大の先生方の指導の下、体験学習を積み重ねてきました。そして、9月26日(木)、稲花タイムの一環として「田奈稲刈り実習」で、少しずつですが稲刈りをしました。10月2日(月)、この田んぼのお米(1kg)が子どもたち一人一人に配布しました。

新米のおいしさを、ご家庭で味わっていただけたと思います。「もう、食べたよ」、「美味しかったよ」、さらには、「お父さんが出張から帰るまで、食べないで待っています」など、子どもたちからもほほえましい声が聞かれました。この田奈のお米を使った給食も、11月に予定されています。楽しみですね。



校長 夏秋 啓子